

## 眼鏡着用時の安全性判断についての参考指針

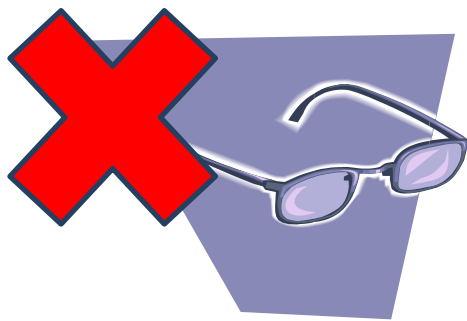
眼鏡の安全性についての判断と試合参加の可否について、**JFA** の見解の一つとして「8人制サッカールールと審判法」に記載されております、

〔競技者の用具〕⑦眼鏡については、主審が安全であると判断したものは着用できる。

と言う記載部分が根拠になると考えられ、且つ、主審が許可したものに限られます。その判断と許可が主審に委ねられている訳ですが、その判断基準として二つの視点からの考察をお願いいたします。

① 相手選手は安全か？

② 選手自身は安全か？



通常的眼鏡の場合（当然にプラスチックレンズを指し、フレーム素材もプラスチック等類似素材です）、眼鏡を固定するのに鼻と耳で固定します。この場合ボールが正面・側面から顔面に衝突しますと圧力が鼻や耳の後ろの部分、また場合によっては眉毛の辺りや眼球にまで加えられ、怪我に及ぶ場合が考えられます。それは勿論、相手選手に関しても同じことが言えます。極端に言いますと、凶器にもなり得ると言うことです。

故に、安全性が確保された眼鏡と言うのは、レンズ（フロント）部分と顔面がラバーソールやスポンジ等により密着性が確保され、且つ、レンズ（フロント）部分と頭部との固定にバンド等を使用している眼鏡、いわゆるゴーグルタイプの眼鏡が最適であると考えられます。

※素材・・・ゴム状・プラスチック（レンズ・フレーム共）であり、金属が使用されていないこと。

※固定バンド・・・運動中にずれない、また、外れない事などを特に確認。

主審の方に於かれましては、勿論、事故や怪我が100%防げる訳では有りませんが、現場にて素材や形状などの確認と、上記の点に注意し判断材料の一助としていただければ幸いです。

以上